

教科	課題（現状、傾向、課題分析）	改善プラン（改善のための具体策や取組）	成果(○)と課題(△)
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・相手意識をもって工夫して話したり、大事なことを落とさず聴いたりすることに課題がある。 ・文章を書くことに苦手意識をもっている児童がいる。 ・自分の考えを整理して、文章に表すことに時間がかかる児童が多い。 ・物語文の場の移り変わりや登場人物の気持ちの変化を読みとったり、説明文の構造や内容の把握をしたりすることが苦手な児童が多い。 ・漢字の習得に個人差があり、既習の漢字を使って文章を書くことが定着していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的を明確にしてから活動し、事後は、話した内容や話し方・聴き方を再考する。 ・スピーチをする機会を設け、話すこと・聴くことの経験を増やす。 ・行事前後の意気込みや振り返り、日記など、書く機会を増やす。 ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やしたり付箋を活用して文の組み立てを考えさせたりする。 ・場面の移り変わりや展開に応じた行動の違いに印や線を入れ、行動と気持ちを関連付けて読むことを繰り返す。 ・目的を意識して、中心となる語や文を見付ける。 ・間違いやすい漢字を抽出し、小テストを繰り返す。 ・日記や短文作りなど、文の中で学習した漢字を使うことを通して、定着を図る。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・3年になって始まった学習に関心が高く、期待が大きい。 ・身近な地域や区の様子について理解や気付きが少なかったが、学習を通して自分たちのまちに興味・関心が高まった。 ・感染対策から現地に赴き話を伺うことや体験がしにくい現状にあるが、まち探検の計画を立てた。 ・地図や写真、統計などの資料から情報を読み、考える力が必要である。 ・情報収集や整理の仕方、調べたことを絵地図・新聞などに表現する力を高める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な課題と考えられるように、興味をもちそうな話題を投げかけたり、ICT機器を活用して意欲や気付きを促したりする。 ・ICT機器を活用した画像や動画などの教材の準備の他、消費者としての保護者へのアンケートや、家庭での見学・調査の協力をお願いする。 ・資料を読む活動を取り入れたり、読み取る時間を確保したりして、資料から読み取る楽しさを味わわせる。 ・モデルとなるノートを紹介し、よさを児童に伝える。 ・単元の学習後に、新聞などにまとめる活動を取り入れ、作品を見合うことで、表現力を高める。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・文章問題の問いを正しく読み取れず、計算できても正しく答えられない児童がいる。 ・考え方をノートに書いたり、説明したりする力を高める必要がある。また、自分の考えに自信がもてない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分かっていることと問いの文を色分けして区別し、内容を整理して問題場面をつかみやすいようにする。 ・見通しをもたせてから自分の考えをノートに書くようにし、気付きや間違いは加筆し、消さずに軌跡を残す。 ・図を使ったり、順序立てた説明をしたりすることができるよう、声掛けしながら机間指導する。 ・考えを共有しやすいように、ホワイトボードや書画カメラを活用する。多様な考え方や説明の仕方を自分に生かせるように助言したり、実践している児童から感想を聴 	

	<ul style="list-style-type: none"> 数量感覚や、単位の理解や換算の仕方を身に付けることが必要である。 わり算や筆算などの計算はよくできている児童が多いが、継続的に練習していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> いたりして考えを広げていく。 実測するなど算数的活動の中で、数量感覚を養い、理解につなげる。生活と結び付けて考えられるようにする。 けやきタイムなどを利用して、東京ベーシックドリルに取り組み、基礎基本の定着を図る。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> 観察や実験に意欲的に取り組んでいる。 問題場面から観察・実験する目的意識が弱く、実験や観察の結果から考察することに苦手意識がある。 身近な出来事と結び付けて考える力を伸ばす必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題把握→予想→観察・実験→結果→考察→結論を学習の進め方の基本とし、児童が見通しをもって活動したり、考えたりできるようにする。 観察や実験の目的を明確にし、結果を整理しやすいように支援する。「同じ」や「違い」に気付かせ、考察できるよう促す。 児童にとって身近な事象を提示したり、実体験を話し合わせたりする活動を増やし、日常生活と結び付いた学習問題の設定や考察ができるようにする。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 新しくリコーダーが楽器に加わり、音が出せない中、運指を習得しようと一生懸命だった。また、2学期からすぐに音が出せるよう集中して教科書に階名を書いていた。 音が出せない中の授業だったので、1学期に学習した知識をすぐに生かせるように、教材を工夫する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> スムーズにリコーダーの活動ができるように、電子黒板を用いてタンギングの方法や姿勢など視覚的に確認できるようにする。 お互いの音を聴き合い、気持ちの良い音色か友達と確かめ合いながら活動を進めていく。 	
図画 工作	<ul style="list-style-type: none"> 活動に見通しがもてない児童がいる。 自分の思い通りにならない時に自分で考えて解決することができない。 既習事項を生かして表現できていない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導者や友達と考えながらつくる。手順を細かく分けて考えるよう指導する。 計画的な造形体験を積みませ、技能の定着を図る。 表したいものに応じて経験した技法を選択できるようにする。 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に運動に取り組んでいる。 運動により個人差が出てくる。 どのようにしたらできるようになるかを工夫し、運動を楽しむ姿勢をさらに伸ばす必要がある。 チーム対抗の運動をしたり、交流及び共同学習の児童と関わったりすることで、全員が活動しやすいルールや方法を考える機会になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 図や映像資料等を、ICT機器を活用して分かりやすく示し、運動の行い方を確実にとらえられるようにする。 技能ポイントを紹介する。 一人一人がめあてをもって見通しをもち、段階を踏んで課題解決ができるようにする。(学習カードを活用する) 作戦を考えさせたり、その結果を振り返らせたりする時間を設ける。 肯定的な言葉掛けを例示できているチームを紹介する。 相手の立場に立って考え、ルールやきまりの大切さを考えることを促す。 	